

パスバリアンス分析からみた経橈骨脳血管内治療の優位性についての検討

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

■ 研究の対象となる方

2021年4月～2023年3月に当科でカテーテル治療のため入院された方

■ 目的・方法

心血管内治療では、出血のリスクや術中・術後の安全・安楽などに優位性があり、経橈骨動脈アプローチが第一選択となっています。しかしながら脳血管内治療においては、医学的臨床データから経橈骨動脈アプローチの優位性は示されておらず、未だに経大腿動脈アプローチが第一選択です。一方当科ではカテーテル治療を受ける全ての患者様にクリニカルパスが適用されております。今回、クリニカルパスのデータやバリアンス分析からみた経大腿動脈アプローチに対する経橈骨動脈アプローチの優位性を評価するのが目的です。

尚、診療の中で得られた情報を使用します。この研究のために新たな検査や調査をお願いすることはありません。収集した情報は個人情報データを削除し、済生会熊本病院内で情報を集約し、解析・検証を行います。久留米大学では統計処理後の結果の検証を行いますので、患者さんの個人情報の提供は行いません。

■ 実施期間

2023年6月9日～2025年3月31日

■ 研究に使用する情報

年齢、性別、身長、体重、既往歴、喫煙歴、飲酒歴、服薬情報、バイタル情報、併存疾患情報、ADLなどの基本的な情報や血液検査やCT画像データ、パスバリアンス、入院期間の診療内容に関する情報が含まれます。

■ 研究の実施体制

研究代表 済生会熊本病院 脳神経外科 副部長 加治正知
共同研究機関 久留米大学バイオ統計センター 松本晃太郎

■ お問い合わせ

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。また、本研究の成果は学会等での公表を予定しておりますが、個別にご説明することも可能です。いずれも下記へお申し出下さい。

試料や情報が本研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

連絡先

済生会熊本病院 医療情報調査分析研究所 小妻 幸男

住所：熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号 電話：096-351-8000(代表)

以上